

1. 昭和48年に守屋氏を中心作った小山FC。荒地を耕し、ゴールは丸太で作った 2. 地域のスポーツ活動にも参加している 3. 相模原市の職員から小学校教諭に転身、サッカーに携わってきた守屋氏 4. 小学校で道徳の授業を行う竹中穂氏 5. 読み聞かせを行うゼルビアひろめ隊の酒井良氏 6. 女子サッカー普及の取り組みも始めている



特集3 FC町田ゼルビア

『おらが町のサッカークラブ』

少年サッカーの町と言われる町田市でゼルビアが挑む2度目のJ2シーズンが開幕した。ゼルビアという名でチームが稼働したのは1996年だが、その20余年前から種を蒔いてきた大勢の人たちがいる。ゼルビアに託された夢は、強いチームになることだけではなく果てしなく続く、大きな大きな未来だった。



FC町田ゼルビア <http://www.zelvia.co.jp/> ホーム開催日程 3/20(日) vs ツエーゲン金沢 4/3(日) vs 北海道コンサドーレ札幌 4/23(土) vs V・ファーレン長崎 5/3(火) vs FC 岐阜 5/15(日) vs ギラヴァンツ北九州
NPO法人アスレチッククラブ町田 <http://acmachida-zelvia.com/>

ゼルビアの前身であるFC町田が産声を上げたのは1977年。町田サッカー協会主導で作られた小学生の選抜チームFC町田は、結成初年度いきなり史上最強と恐れられていた清水FCから勝利をもぎ取った。4年後には全国制覇を果たし、町田の名前は全国区となった。多くの優秀な選手を輩出するも、その後の受け皿となるチームがなく選手は町田を去るしかなかった。そんな状況に町田のサッカー関係者は業を煮やし、85年にジュニアユース、86年にユース、そして89年にトップチームが作られた。東京都サッカーリーグ4部からスタートし途中からゼルビアという名を冠したクラブは20年をかけたJFLに昇格。2011年には夢のJリーグ昇格も果たす。数えきれない程多くの苦難もあったが、挫けずにクラブもサポーターも走り続けた。

「目指しているのは試合に勝つことだけではなく、地域の希望や誇りとなる、子ども達に夢を与えられるクラブになること」——そう語るのは黎明期からクラブを支えてきた守屋実氏だ。サッカーに関わって40年以上になる。町田という地域、未来を担う子ども、この

二つをサッカーで育みたいという熱い想いは当時のままだ。

こうした志は、現在NPO法人アスレチッククラブ(AC)町田で行っている活動のベースになっている。サッカーだけでなく、総合的なスポーツの育成と地域活性化を目標に、その内容は多岐に渡る。小学校への出前サッカーや幼稚園での読み聞かせ、アンチエイジングサッカーや農業体験「いもづるの会」など、大勢の市民を巻き込んだ活動が展開されている。ホームの試合後に開催される「ふれあいサッカー」でボールを蹴った子ども達は、延べ1万人以上になる計算だ。なでしこを目指す「コパゼルビアレディース」も昨年スタートした。

「まだやっと夢半ばというところかな。でも、照明もないデコボコのグラウンドで練習したあの頃から思えば、今は全てが夢のよう。星(大輔)くんがおじいちゃんになつて、その孫がピッチでJ1昇格のゴールを決める。そんな日がいつか来たらいいなあ。僕はもう生きていないかもしれないけどね。」守屋氏が描く夢はゼルビアを愛する全ての人たちの夢でもある。